

# キヤノン株式会社

## 2025年第3四半期 決算説明会

2025年10月27日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2025年3Q実績	P 2～5
■ 2025年年間見通し	P 6～10
■ 財務状況	P 11～13
■ まとめ	P 14
■ 参考資料	P 15～20

- 当社関連市場においては米国の追加関税や地政学的リスクも相まって、第2四半期と比べて投資の先送り傾向が強まっている
- プリンティングが減収となったがカメラやネットワークカメラは順調に伸び、インダストリアルは20%以上の増収
- 売上高は2%の増収となり、第3四半期累計でも過去最高
- 利益は関税影響により第3四半期は減益となったが、売上増に加えて、昨年行った販売構造見直しの効果により収益性は改善しており、第3四半期累計では引き続き増収増益

2

上期から導入されている米国の追加関税の影響は米国のみならず、地政学的リスクと相まって欧州など他地域にも及んでおり、第2四半期と比べても投資の先送り傾向が強まりました。

当社の第3四半期の業績についても、その影響を受けレーザープリンターを中心にプリンティングが減収となったものの、上期に引き続きカメラやネットワークカメラが順調に販売を伸ばし、インダストリアルも20%以上売上を伸ばしたことで、2%の増収となりました。

利益については、売上の増加に加えて昨年行った販売構造改革の効果が寄与しましたが、生産構造改革費用を計上したことに加え、米国の追加関税によるマイナス影響があったことで、営業利益率は昨年より1.1ポイント減少して8.0%となっています。

第3四半期累計では、為替の円高影響を受けながらも上期から販売が堅調に推移したことで売上は過去最高を達成しており、営業利益も3,000億円を超えて増益となり、厳しい市場環境の中でも着実に業績は改善しています。

# 2025年3Q 全社PL

(億円)	3Q			3Q累計		
	2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 実績	2024年 実績	対前年
売上高	11,043	10,798	+2.3%	33,029	32,361	+2.1%
売上総利益 (売上総利益率)	5,120 46.4%	5,164 47.8%	-0.8%	15,477 46.9%	15,464 47.8%	+0.1%
経費 (経費率)	4,240 38.4%	4,182 38.7%		12,453 37.7%	12,498 38.6%	
営業利益 (営業利益率)	880 8.0%	982 9.1%	-10.3%	3,024 9.2%	2,966 9.2%	+1.9%
営業外損益	38	-89		117	142	
税引前利益	918	893	+2.8%	3,141	3,108	+1.1%
純利益 (純利益率)	637 5.8%	688 6.4%	-7.4%	2,196 6.6%	2,186 6.8%	+0.5%
USD	147.50	149.00	-1.50	148.06	151.34	-3.28
EUR	172.33	163.81	+8.52	165.56	164.58	+0.98

3

第3四半期の売上は、1兆1,043億円となり、対前年で2.3%の増収となりました。

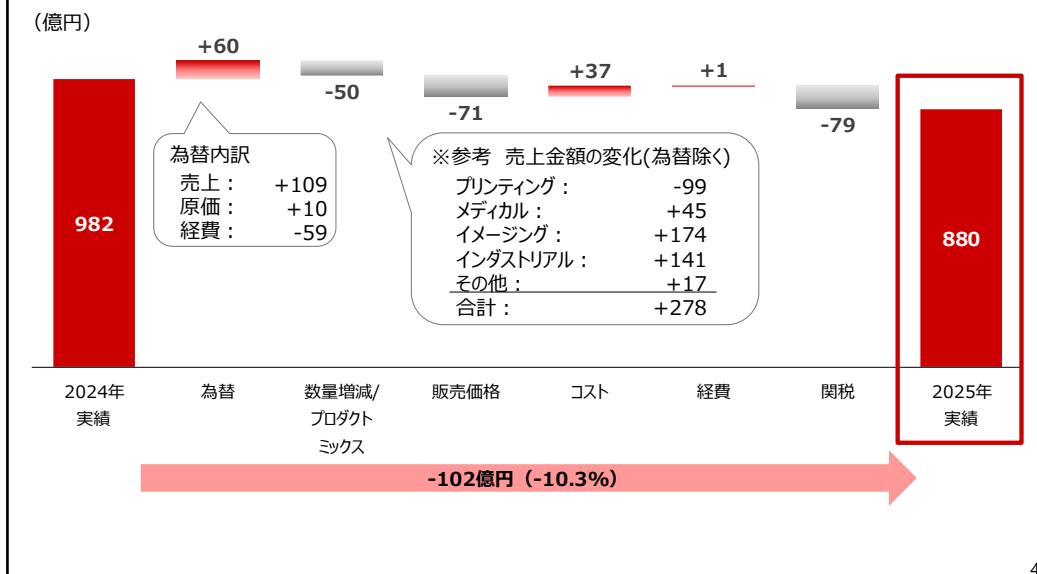
売上総利益については、米国の関税影響もあり、1.4ポイント低下しましたが、経費は昨年行った販売構造改革の効果もあり、0.3ポイント改善しました。

その結果、営業利益は前年を10.3%下回る880億円となりましたが、外貨建て債権の評価替え影響もあり税引前利益は2.8%増の918億円、純利益は前年の税率が特殊要因により低い水準だったため7.4%減の637億円となりました。

3Q累計では、売上高は2.1%増収の3兆3,029億円となり、過去最高となっています。営業利益は、1.9%増の3,024億円、純利益は0.5%増の2,196億円と増収増益を達成しました。

# 2025年 営業利益分析(3Q)対前年

Canon



ドルはわずかに円高だったものの、ユーロは9円近く円安になったことにより、為替影響で60億円のプラスとなりました。

数量増減/プロダクトミックスについては、収益性の高いレーザープリンターが減収となったことに加え、プリンティングやイメージングにおいて低価格帯へ販売がシフトしたことにより、50億円のマイナスとなりました。

イメージングを中心に販促投資が増加したことで販売価格も71億円のマイナスとなりましたが、その一部を37億円のコストダウンによりカバーしています。

経費は、人件費のベースアップや生産構造改革費用の計上がありましたが、昨年販売会社の経費構造を見直した効果もあり、前年並みにとどめています。

これに、米国の追加関税のマイナス影響79億円が加わり、営業利益は880億円となり、前年から10.3%減少しました。

# 2025年 ビジネスユニット別PL(3Q)

(億円)		3Q			3Q累計		
		2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 実績	2024年 実績	対前年
プリンティング	売上高	6,040	6,109	-1.1%	18,256	18,457	-1.1%
	営業利益	522	607	-14.0%	2,022	2,054	-1.6%
	(%)	(8.6%)	(9.9%)		(11.1%)	(11.1%)	
メディカル	売上高	1,329	1,323	+0.4%	4,122	4,075	+1.1%
	営業利益	64	47	+36.4%	182	157	+15.4%
	(%)	(4.8%)	(3.5%)		(4.4%)	(3.9%)	
イメージング	売上高	2,536	2,396	+5.9%	7,264	6,598	+10.1%
	営業利益	381	436	-12.6%	1,084	989	+9.7%
	(%)	(15.0%)	(18.2%)		(14.9%)	(15.0%)	
インダストリアル	売上高	854	701	+21.7%	2,452	2,308	+6.3%
	営業利益	139	140	-0.4%	400	440	-9.0%
	(%)	(16.3%)	(20.0%)		(16.3%)	(19.1%)	
その他及び全社	売上高	554	539	+2.7%	1,720	1,689	+1.8%
	営業利益	-229	-246	-	-671	-682	-
消去	売上高	-270	-270	-	-785	-766	-
	営業利益	3	-2	-	7	8	-
連結合計	売上高	11,043	10,798	+2.3%	33,029	32,361	+2.1%
	営業利益	880	982	-10.3%	3,024	2,966	+1.9%
	(%)	(8.0%)	(9.1%)		(9.2%)	(9.2%)	

※ 2025年より報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、インダストリアルと消去の一部を組み替えており、2024年についても組み替えて表示しております。

5

第3四半期のプリンティングについては、米国の関税影響に加え、欧州・アジアでもプリント機器の購入を先送りする動きが見られたことで、レーザープリンターを中心にユニット全体では1.1%の減収となりましたが、成長事業である商業印刷については、カットシート機「varioPRINT iX3200」の販売を伸ばしたことで増収となりました。オフィス複合機については第3四半期に新シリーズ「imageFORCE」を複数モデル発売し、第4四半期以降の拡販に向けて多くの受注を獲得しています。

メディカルは、中近東やブラジルなどの新興国で引き続き売上を伸ばしたものの、大型装置を中心に投資が先送りされた日本や欧州などで減収となったため、前年並みの売上となりました。

イメージングのカメラはエントリー機の「EOS R50」、「EOS R100」が中国・アジアを中心に好調に販売を伸ばし、需要が旺盛なコンパクトカメラも増産により大幅に供給量を増やしたことで売上を拡大し、5%の増収となりました。ネットワークカメラも、販売が引き続き堅調に推移したことで8%の増収となり、イメージンググループ全体では5.9%の増収となりました。

インダストリアルは、旺盛なAI需要のもと、半導体露光装置を後工程向け中心に54台販売したことに加え、成膜装置も先端半導体向けに売上を大きく伸ばしました。また、FPD露光装置もスマートフォン向け装置を中心に前年を7台上回る11台を販売したことにより、インダストリアル全体で20%を超える増収となりました。

- 第4四半期も、米国の追加関税と地政学的リスクの影響により、投資の先送り傾向は続く想定
- カメラやネットワークカメラは成長を継続し、プリンティングは新製品でシェア伸長、装置ビジネスは受注済み案件を確実に売上へ繋げる
- 四半期ベースで過去最高の1兆3,000億円以上の売上と11%台の利益率の達成、年間で増収増益を目指す
- 8月に追加された米国の関税影響や市況悪化を織り込み、営業利益で90億円、純利益を45億円下方修正
- 配当金は5円増配の160円とし、コロナ前2019年水準へ戻すとともに自社株買いについては3,000億円を実施済み

6

当社関連市場については、第4四半期も、米国の関税や欧州における地政学的リスクの影響により投資の先送り傾向は続く想定しています。

そのような中でも1年の中で最も売上水準が高い第4四半期は、好調なカメラやネットワークカメラは引き続き成長を継続させ、プリンティングは投入した新製品でマーケットシェアを伸ばすとともに、露光装置や商業印刷機、メディアなどの装置ビジネスは受注済みの案件を確実に売上につなげることによって、四半期ベースで過去最高となる1兆3,000億円の売上を目指します。

利益については、構造改革費用の計上が本格化するものの、売上増加に加えて、全社的なコスト削減活動を展開することで、営業利益率を11%台まで高める計画です。

年間の見通しについては、8月に追加された米国の関税影響を織り込み、営業利益で90億円、純利益で45億円下方修正しますが、引き続き増収増益を目指します。

株主還元は、配当を前年から1株あたり5円増配し、コロナ前の水準である160円に戻す計画であり、自社株買いについてはすでに3,000億円を実施済みです。

# 2025年年間 全社PL

Canon

(億円)	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
売上高	46,160	45,098	+2.4%	46,000	+160
売上総利益 (売上総利益率)	21,540 46.7%	21,431 47.5%	+0.5%	21,600 47.0%	-60
経費 (経費率)	17,030 36.9%	16,982 37.6%		17,000 37.0%	-30
営業利益 (営業利益率)	4,510 9.8%	4,449 9.9%	+1.4%	4,600 10.0%	-90
税引前利益	4,660	4,663	-0.1%	4,720	-60
純利益 (純利益率)	3,255 7.1%	3,251 7.2%	+0.1%	3,300 7.2%	-45
USD	148.58	151.63		145.06	
EUR	168.24	163.99		163.70	
2025年4Qの為替影響額 (1円の変動による影響)					
				売上	営業利益
				USD	35億円 10億円
				EUR	19億円 10億円

※2024年は、減損損失影響を除いて表示しております。

前提となる為替レートについては、第3四半期までの円安傾向を反映し、第4四半期以降、前回見通しよりドルは8円円安の150円、ユーロは10円円安の175円に変更し、売上で801億円、営業利益で269億円のプラス影響を年間で織り込みました。

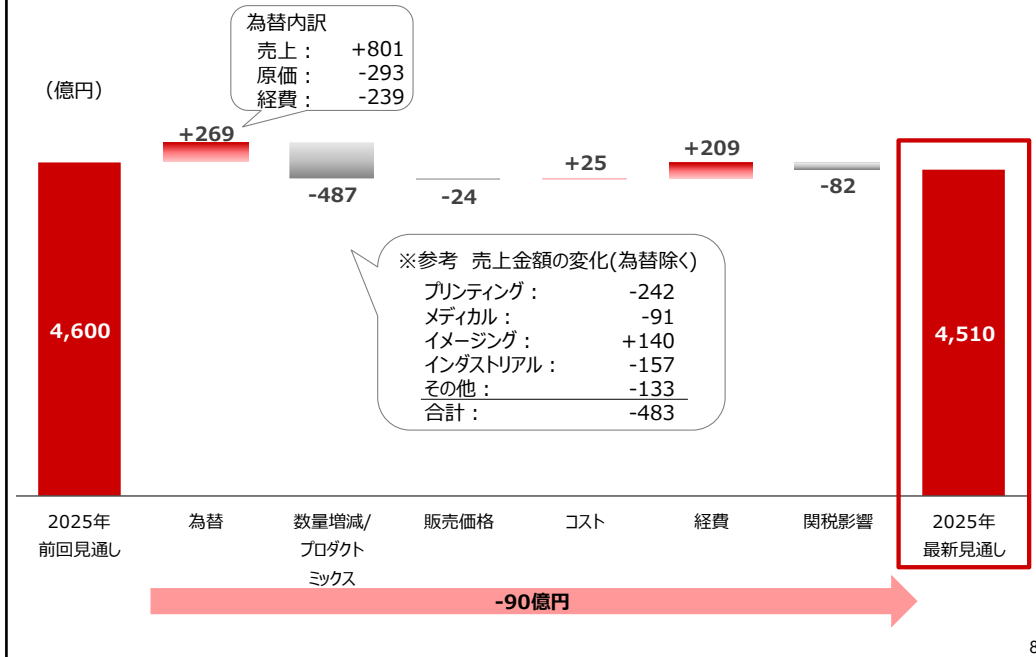
その一方、米国の追加関税や、それに伴う投資先送りなどの最新の経営環境を反映し、年間の最新見通しは前回見通しから、売上を160億円上方修正、営業利益を90億円、純利益を45億円、それぞれ下方修正しました。

対前年では、売上高は2.4%増の4兆6,160億円、営業利益は1.4%増の4,510億円、純利益は0.1%増の3,255億円と引き続き増収増益を目指します。



# 2025年 営業利益分析(年間)対前回

Canon



為替影響は、前提となる為替レートを円安方向に見直したことにより年間で269億円のプラス影響となります。

数量増減/プロダクトミックスは、プリンティングやインダストリアルの上見通しを引き下げたため487億円のマイナスとなりました。

数量減によるマイナス影響を補うため、追加のコストダウンを25億円見込み、経費については販売数量の減少に対応し広告宣伝費や販売促進費の削減、設備投資や要員採用計画の時期の見直しをかけることで209億円減少させます。

ここに米国の関税影響82億円のマイナスを加え、営業利益は90億円減少の4,510億円となる見込みです。

# 事業構造の見直し

Canon

(億円)

		2024年 年間	2025年				
			1Q	2Q	3Q	4Q見通し	年間見通し
販売 構造改革	費用	-200	-12	-5	-8	-35	-60
	効果	80	50	49	53	68	220
	PL影響	-120	38	44	45	33	160
生産 構造改革	費用	0	-9	-1	-48	-142	-200
	効果	0	0	0	0	0	0
	PL影響	0	-9	-1	-48	-142	-200
メディカル 事業革新	費用	-25	-7	-7	-7	-29	-50
	効果	0	15	22	20	43	100
	PL影響	-25	8	15	13	14	50
合計	費用	-225	-28	-13	-63	-206	-310
	効果	80	65	71	73	111	320
	PL影響	-145	37	58	10	-95	10

9

当社が現在実行している3つの構造改革は順調に進んでいます。

1つ目の販売については、昨年行った施策の効果が年初から出ており、第3四半期も53億円利益貢献し、年間では220億円の利益改善効果を見込んでいます。一方、第4四半期は欧州地域を中心に、さらなる構造改革を進める予定で、年間で約60億円の費用が発生する計画です。

2つ目の生産では、地政学リスクや生産性の観点から生産拠点集約の動きを本格化し、第3四半期は48億円の費用を計上しました。第4四半期は、それをさらに推し進め年間では200億円の費用をかけて実行し、来期以降に効果が出る見込みです。

3つ目のメディカル事業革新については、開発、生産、管理、販売など各オペレーションにおいて、収益性改善の施策が順調に進んでおり、第3四半期は20億円の効果が出ました。第4四半期は赤字事業・赤字子会社の見直しや外部支出費用の削減、サービスのオペレーション改善などの効果が加わることで、年間では100億円の利益改善効果を見込んでいます。

# 2025年 ビジネスユニット別PL(年間)

Canon

(億円)		2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回	内、関税影響	その他
プリンティング	売上高	24,951	25,227	-1.1%	24,897	+54	-126	+180
	営業利益 (%)	2,762 (11.1%)	2,899 (11.5%)	-4.7%	2,877 (11.6%)	-115	-35	-80
メディカル	売上高	5,809	5,688	+2.1%	5,821	-12	-9	-3
	営業利益 (%)	313 (5.4%)	247 (4.3%)	+26.9%	345 (5.9%)	-32	-24	-8
イメージング	売上高	10,497	9,374	+12.0%	10,111	+386	+2	+384
	営業利益 (%)	1,634 (15.6%)	1,513 (16.1%)	+8.0%	1,583 (15.7%)	+51	-21	+72
インダストリアル	売上高	3,659	3,517	+4.0%	3,803	-144	+0	-144
	営業利益 (%)	636 (17.4%)	689 (19.6%)	-7.7%	683 (18.0%)	-47	+0	-47
その他及び全社	売上高	2,244	2,337	-4.0%	2,351	-107	-1	-106
	営業利益	-841	-912	-	-891	+50	-2	+52
消去	売上高	-1,000	-1,045	-	-983	-17	-	-17
	営業利益	6	13	-	3	+3	-	+3
連結合計	売上高	46,160	45,098	+2.4%	46,000	+160	-134	+294
	営業利益 (%)	4,510 (9.8%)	4,449 (9.9%)	+1.4%	4,600 (10.0%)	-90	-82	-8

※2024年は、減損損失影響を除いて表示しております。

※2025年より報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、インダストリアルと消去の一部を組み替えており、2024年についても組み替えて表示しております。

10

プリンティングの第4四半期は、レーザープリンターの出荷調整により減収となりますが、商業印刷についてはハイドルベルグ社を通じた販売も増える見込みで、カットシート機を中心に売上を伸ばしていきます。オフィス複合機は新シリーズ「imageFORCE」の拡販により売上を伸ばしていきます。インクジェットプリンターは、大容量インクモデルと、9月に発売したホームプリンティング向けの新製品によって拡販を進めます。市況が厳しい中でも、商業印刷とITソリューションが成長することにより、ビジネスユニット全体の年間売上は昨年並みの水準を維持します。

メディカルは、米国で関係強化を進めている大病院から獲得した大型装置の受注を売上につなげるとともに、上期に新たに契約したディーラーへの販売を本格化させることで成長を牽引し、第4四半期は4.6%の売上増を見込んでいます。年間の売上成長は2.1%にとどまりますが、利益については事業革新活動により着実に改善しており、売上成長の加速を見込む来年以降、収益性のさらなる改善を図っていきます。

イメージングのカメラは、商戦期である第4四半期に好調なエントリー機やコンパクトカメラに加え、フルサイズ機についても拡販を図り、年間で9%の増収を計画しています。ネットワークカメラについても、各地域で市場の成長は堅調に続くことから、年間では17%の成長を見込んでおり、イメージンググループ全体として二桁成長と一兆円の売上を目指します。

インダストリアル第4四半期は、半導体露光装置についてはEV需要の減速からパワー半導体を中心に投資を先送りする傾向が続いているものの、AIへの需要は引き続き力強く、後工程向け装置を中心に80台を販売し、インダストリアル全体で年間4.0%の増収を目指します。また、次世代の半導体製造装置であるナノインプリントは、大手半導体メーカーに出荷した装置で、メモリやロジックへの適用を目指した評価・検証を顧客先で加速させており、量産に向け、さらなる進展を図っていきます。

# 在庫の状況

- 商戦期向けの商品在庫の積み増しがあるものの、仕掛品は減少
- 2025年末は適正在庫である60日以下の水準を目指す

(金額：億円)		2024年				2025年		
		3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末
プリンティング	金額	3,476	3,615	3,441	3,427	3,344	3,461	3,681
	日数	52	53	50	49	47	52	55
メディカル	金額	1,411	1,460	1,421	1,332	1,398	1,385	1,485
	日数	86	97	95	83	85	90	99
イメージング	金額	1,915	1,824	1,685	1,586	1,763	1,664	1,721
	日数	86	79	63	56	66	64	61
インダストリアル	金額	1,464	1,502	1,587	1,380	1,507	1,603	1,547
	日数	160	168	175	130	146	183	159
その他及び全社	金額	683	724	763	693	716	682	704
合計	金額	8,949	9,125	8,897	8,418	8,728	8,795	9,138
	日数	76	77	72	65	68	73	74

11

2025年9月末の在庫金額は、商戦期である第4四半期の売上拡大に向けて商品在庫の水準を引き上げていることから、6月末より343億円の増加となりましたが、仕掛品・原材料については発注の抑制やリードタイムの短縮などの削減活動の効果により減少しています。

年末には、商戦期の販売増によって商品在庫が大きく減少するとともに、仕掛品・原材料についてもさらなる削減を進めることで、回転日数が60日を下回る適正水準まで改善していきます。

# キャッシュフロー(年間)

- 営業CFは5,000億円以上を確保
- 将来のための成長投資と積極的な株主還元を実施する

(億円)	2025年 最新見通し	2025年 前回見通し	2024年 実績	2023年 実績
純利益	3,255	3,300	3,251	2,645
償却費	2,350	2,350	2,355	2,387
その他	-365	450	462	-520
営業活動によるキャッシュフロー	5,240	6,100	6,068	4,512
設備投資	-2,500	-2,500	-2,370	-2,317
その他	-50	-760	-603	-437
投資活動によるキャッシュフロー	-2,550	-3,260	-2,973	-2,754
フリーキャッシュフロー	2,690	2,840	3,095	1,758
財務活動によるキャッシュフロー	-2,710	-3,600	-2,260	-1,567
為替変動影響	14	-136	167	201
現預金の純増減額	-6	-896	1,002	392
現預金の期末残高	5,010	4,120	5,016	4,013
手元回転月数	1.2	1.0	1.3	1.1

※ 2024年の純利益は、減損損失影響を除いて表示しております。

12

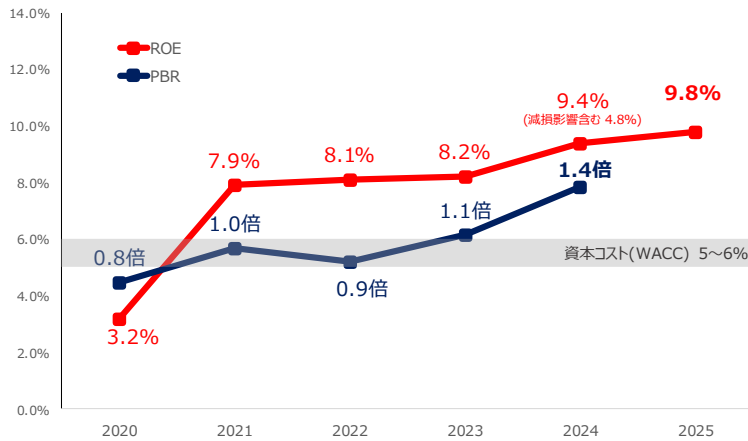
営業キャッシュフローは、純利益の低下や運転資本の増減を見直した影響で低下しましたが、引き続き5,000億円以上を確保します。

投資キャッシュフローとしては、将来を見据えた設備投資のために2,500億円を投じており、7月には宇都宮で半導体露光装置の新工場が竣工したことに加え、生産構造の見直しに伴い国内への生産回帰を進めています。

今年は、創出したキャッシュを活用し、株主還元を積極的に行っており、自社株買いは2007年以来の高水準となる3,000億円実施し、配当についてもコロナ前の水準である1株あたり160円まで引き上げています。

# 資本収益性

- 2025年のROEは9.8%となる見通し
- 売上成長と構造改革を進め、早期の10%以上達成を目指す

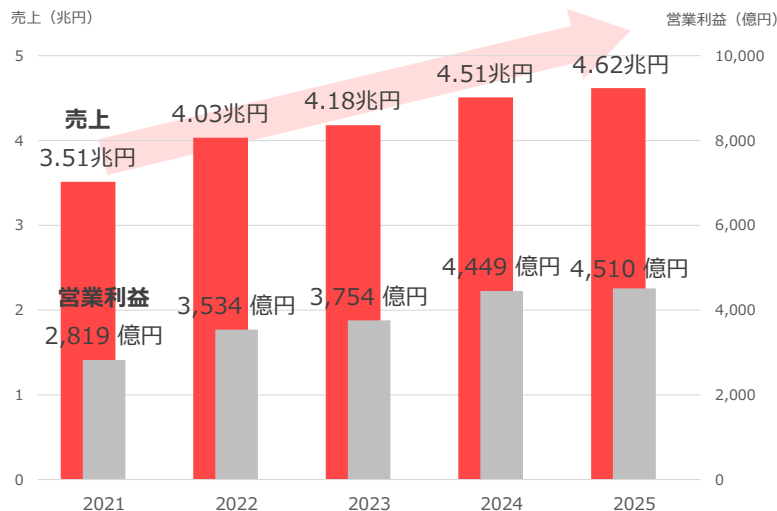


13

純利益は前年並みとなりますが、今年は3,000億円の自社株買いを実施したことにより株主資本が圧縮され、ROEは昨年から0.4ポイント改善の9.8%を見込んでいます。

今後もメディカルやネットワークカメラなどの成長領域を伸ばしていくことに加え、構造改革を着実に推し進めていくことで利益の最大化と資本効率の改善を図り、目標としているROE10%以上を早期に達成できるよう努めていきます。

- 5カ年計画仕上げの年である2025年は5年連続の増収増益とともに構造改革を加速させ、次の5カ年の飛躍につなげていく



14

第3四半期は本格的に米国の追加関税による影響が表れてきましたが、当社は販売を伸ばすとともに、これまで継続的に取り組んできた開発・生産・販売の構造改革によって収益性は向上しており、第3四半期までの合計で増収増益を確保することができました。世界経済に不透明感が増していますが、第4四半期はプリンティングやイメージングは商戦期において新製品を中心に販促活動を強化し、露光装置やメディカルは受注済みの案件を確実に売上につなげることで、過去最高の売上を達成し、5期連続の増収・増益を目指します。

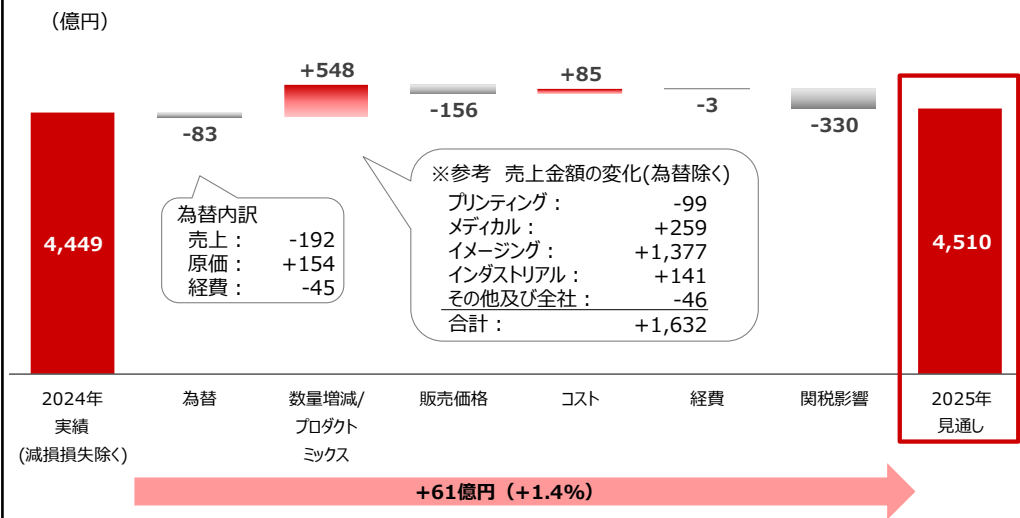
今年は5カ年計画「グローバル優良企業グループ構想Phase VI」仕上げの年となり、残すところ2か月となります。現在全社で取り組んでいる3つの構造改革を加速させつつ増収増益を達成し、2026年から始まる5カ年計画でのさらなる飛躍を図れるよう、全社一丸となって取り組んでいきます。

## 參考資料



# 2025年 営業利益分析(年間)対前年

Canon



## ■売上/対前年伸び率

(億円)

		3Q			年間				
		2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,075	1,055	+1.9%	4,466	4,415	+1.2%	4,460	+6
オフィス	オフィス複合機	1,492	1,529	-2.4%	6,365	6,470	-1.6%	6,361	+4
	オフィスその他	1,050	980	+7.1%	4,293	4,081	+5.2%	4,270	+23
		2,542	2,509	+1.3%	10,658	10,551	+1.0%	10,631	+27
プロシューマー	LP	1,594	1,717	-7.1%	6,403	6,796	-5.8%	6,370	+33
	インクジェット	829	828	+0.1%	3,424	3,465	-1.2%	3,436	-12
		2,423	2,545	-4.8%	9,827	10,261	-4.2%	9,806	+21
売上高計		6,040	6,109	-1.1%	24,951	25,227	-1.1%	24,897	+54
営業利益		522	607	-14.0%	2,762	2,899	-4.7%	2,877	-115
%		8.6%	9.9%		11.1%	11.5%		11.6%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2025年	
	3Q	年間見通し
プロダクション	+0.0%	+0.9%
オフィス	+0.5%	+1.2%
プロシューマー	-6.3%	-3.5%
合計	-2.4%	-0.8%

## ■対前年台数伸び率

	2025年	
	3Q	年間見通し
オフィス複合機	-4%	+0%
LP	-23%	-14%
インクジェット	-9%	+2%

16

## <プロダクション>

商業印刷について、多品種小ロット印刷の需要拡大とともにデジタル印刷へのシフトが進んでいます。今年は米国関税の影響によって顧客の投資先送りは見えるものの、市場は中期的に成長を継続する見込みです。

高い生産性が顧客から評価されている「varioPRINT iX3200」が、好調だった上期に続いて第3四半期もさらに販売を伸ばしています。第4四半期は、オフセット印刷機のリーディングカンパニーであるハイデルベルグ社を通じた販売も増える見込みであり、カットシート機を中心に売上を伸ばしていきます。

9月には、ロール紙だけでなく、アクリル板やアルミ板などの硬い素材にも印刷可能な当社初のハイブリッド大判印刷機「Colorado XL」を発表しました。今後も、B2サイズの下紙まで対応する「varioPRESS iV7」や、食品・日用品といったラベル向けの「LabelStream LS2000」など、当社がこれまでカバーしていなかった領域に向けた新製品を当社のラインアップに加えることで、拡大を続けるデジタル商業・産業印刷機の需要をより広く捉え、来期以降のさらなる成長につなげます。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

		3Q			年間				
		2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,075	1,055	+1.9%	4,466	4,415	+1.2%	4,460	+6
オフィス	オフィス複合機	1,492	1,529	-2.4%	6,365	6,470	-1.6%	6,361	+4
	オフィスその他	1,050	980	+7.1%	4,293	4,081	+5.2%	4,270	+23
		2,542	2,509	+1.3%	10,658	10,551	+1.0%	10,631	+27
プロシューマー	LP	1,594	1,717	-7.1%	6,403	6,796	-5.8%	6,370	+33
	インクジェット	829	828	+0.1%	3,424	3,465	-1.2%	3,436	-12
		2,423	2,545	-4.8%	9,827	10,261	-4.2%	9,806	+21
売上高計		6,040	6,109	-1.1%	24,951	25,227	-1.1%	24,897	+54
営業利益		522	607	-14.0%	2,762	2,899	-4.7%	2,877	-115
%		8.6%	9.9%		11.1%	11.5%		11.6%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2025年	
	3Q	年間見通し
プロダクション	+0.0%	+0.9%
オフィス	+0.5%	+1.2%
プロシューマー	-6.3%	-3.5%
合計	-2.4%	-0.8%

## ■対前年台数伸び率

	2025年	
	3Q	年間見通し
オフィス複合機	-4%	+0%
LP	-23%	-14%
インクジェット	-9%	+2%

16

## <オフィス複合機>

オフィスにおける中核のプリンティング機器として底堅い需要はあるものの、今年は米国の関税影響に加え、欧州でも投資の先送りが見られ、市場規模は前年から5%ほど減少する見込みです。

第3四半期は、顧客に購入を後ろ倒しする動きが見られ、減収となりましたが、各地域で展開を進めている新シリーズ「imageFORCE」は、新技術によって画質や省電力などの基本性能やサービスメンテナンス性を向上させた点が顧客から高く評価されており、受注を大きく積み上げています。第4四半期は、「imageFORCE」の拡販を推し進めることで、市況が不透明な中でもマーケットシェアを拡大し、売上を大きく伸ばします。

## <オフィスその他>

ITソリューションビジネスについては、製造業、金融業を中心とする旺盛なDX需要を捉え成長を続けており、年間では5%の増収を達成します。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

		3Q			年間				
		2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,075	1,055	+1.9%	4,466	4,415	+1.2%	4,460	+6
オフィス	オフィス複合機	1,492	1,529	-2.4%	6,365	6,470	-1.6%	6,361	+4
	オフィスその他	1,050	980	+7.1%	4,293	4,081	+5.2%	4,270	+23
		2,542	2,509	+1.3%	10,658	10,551	+1.0%	10,631	+27
プロシューマー	LP	1,594	1,717	-7.1%	6,403	6,796	-5.8%	6,370	+33
	インクジェット	829	828	+0.1%	3,424	3,465	-1.2%	3,436	-12
		2,423	2,545	-4.8%	9,827	10,261	-4.2%	9,806	+21
売上高計		6,040	6,109	-1.1%	24,951	25,227	-1.1%	24,897	+54
営業利益		522	607	-14.0%	2,762	2,899	-4.7%	2,877	-115
%		8.6%	9.9%		11.1%	11.5%		11.6%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2025年	
	3Q	年間見通し
プロダクション	+0.0%	+0.9%
オフィス	+0.5%	+1.2%
プロシューマー	-6.3%	-3.5%
合計	-2.4%	-0.8%

## ■対前年台数伸び率

	2025年	
	3Q	年間見通し
オフィス複合機	-4%	+0%
LP	-23%	-14%
インクジェット	-9%	+2%

16

## <プロシューマー>

プリンター市場は、米国では関税による影響を受けており、欧州・アジアにおいても市況の低迷が継続しています。

レーザープリンターは、市況の低迷を受け、第3四半期は欧州・アジアを中心に前年から減収となり、第4四半期も出荷調整を継続します。来年に向けてプリントボリュームが多く見込まれる地域や顧客に対しカラー中高速機の販売を進められるよう、戦略の見直しを図っていきます。

インクジェットプリンターについては、大容量インクモデルは完成させたラインアップのもとで販促活動を強化しながらマーケットシェアを拡大してきており、カートリッジモデルについても、初期費用の低さからホームプリンティング向けに選好される傾向がでてきており、9月に発売した印刷スピードや操作性を高めた新製品の拡販を進めていきます。

# プリンティング ハード/ノンハード売上

## ■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2025年		2024年	
			3Q 実績	年間 見通し	3Q 実績	年間 実績
プロダクション	円貨	ハード	+3%	+2%	+10%	+11%
		ノンハード	+1%	+1%	+5%	+9%
LC	円貨	ハード	+1%	+2%	+7%	+4%
		ノンハード	0%	0%	+2%	+2%
オフィス複合機	円貨	ハード	-7%	-1%	+1%	+1%
		ノンハード	+2%	-2%	+1%	+7%
LC	円貨	ハード	-8%	-1%	-2%	-5%
		ノンハード	+1%	-2%	-2%	+1%
LP	円貨	ハード	-22%	-13%	+33%	+17%
		ノンハード	+4%	-1%	+8%	+9%
LC	円貨	ハード	-23%	-13%	+32%	+11%
		ノンハード	+2%	0%	+11%	+5%
インクジェット	円貨	ハード	-4%	+1%	-3%	-2%
		ノンハード	+3%	-3%	-4%	0%
LC	円貨	ハード	-5%	+1%	-6%	-8%
		ノンハード	+2%	-2%	-6%	-6%

## ■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
売上高計	1,329	1,323	+0.4%	5,809	5,688	+2.1%	5,821	-12
営業利益 %	64 4.8%	47 3.5%	+36.4%	313 5.4%	247 4.3%	+26.9%	345 5.9%	-32

※2024年は、減損損失影響を除いて表示しております。

## ■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2025年	
	3Q	年間見通し
合計	+0.1%	+2.8%

18

## <メディカル>

今年の画像診断装置の市場は、病院の経営環境が悪化している日本や欧州に対し、米国や新興国では成長が継続する見通しですが、不透明な景気を背景に投資先送りの傾向が各地域で見られ、全体では微増もしくは昨年並みにとどまると想定しています。

第3四半期は、中近東やブラジルなどの新興国で引き続き売上を伸ばしたものの、大型装置を中心に投資が先送りされた日本や欧州などで減収となったため、前年並みの売上となりました。

第4四半期は、米国では世界トップ10に入る医療機関との関係強化により獲得したCTや血管撮影装置などの大型装置の受注が売上につながるのに加え、上期に新たに契約したディーラーへの超音波診断装置の販売が本格化することで、売上成長率が高まる見通しであり、新興国の売上も引き続き伸びることで前年から4.6%売上成長する見込みです。

利益については、事業革新活動が順調に進み効果額を積み上げてきており、第3四半期は4.8%まで営業利益率が回復しました。売上規模の大きい第4四半期は7.8%までさらに改善し、年間で5.4%となる見通しです。

4月に発売したマルチポジションCTの「Aquilion Rise」は、臨床試験の成果が高く評価され、世界中から40件以上の引き合いがあり、来年以降、売上を牽引する見通しです。次世代CTと呼ばれるフォトンカウンティングCTについては、キヤノンの機器で撮影した臨床診断画像が放射線医学の分野で世界的に権威のある「Radiology」誌の表紙を飾るなど多くの注目を集めており、早期の発売を目指すことで成長加速につなげていきます。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
カメラ	1,527	1,460	+4.6%	6,321	5,799	+9.0%	6,109	+212
ネットワークカメラ他	1,009	936	+7.9%	4,176	3,575	+16.8%	4,002	+174
売上高計	2,536	2,396	+5.9%	10,497	9,374	+12.0%	10,111	+386
営業利益	381	436	-12.6%	1,634	1,513	+8.0%	1,583	+51
%	15.0%	18.2%		15.6%	16.1%		15.7%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2025年	
	3Q	年間見通し
カメラ	+3.6%	+9.6%
ネットワークカメラ他	+7.4%	+17.7%
合計	+5.1%	+12.7%

## ■カメラ台数/対前年伸び率

	2025年	
	3Q	年間見通し
台数(万台)	73	300
伸び率	+1%	+6%

19

## <カメラ>

2025年のカメラ市場は、各社が積極的な販促活動により需要を喚起し、エントリーモデルを中心に販売数量が増えていることから、前年から6%増加の680万台と見込んでいます。

第3四半期は中国・アジアを中心に堅調に販売を伸ばし、フルサイズミラーレスカメラの「EOS R5 Mark II」の発売により高い水準にあった昨年をさらに上回る4.6%の増収となりました。

ミラーレスカメラのエントリー機の需要が高まる中、「EOS R50」、「EOS R100」がスマホからのステップアップとして若者をはじめとする新しいカメラユーザーから選ばれ好調に販売を伸ばし、第2四半期に発売した新製品「EOS R50 V」、「PowerShot V1」もSNSやVlog用の動画撮影を目的としたユーザーから好評で売上を増やしました。需要が拡大しているコンパクトカメラについては増産により供給量を大幅に増やしたことで増収を牽引しました。

第4四半期はカメラの需要が最も高まる商戦期であることから、販促活動を展開しながら好調なエントリー機の販売を増やし、フルサイズ機や交換レンズについても拡販により売上を伸ばしていきます。コンパクトカメラは若者を中心に需要が拡大しており、より一段と増産を進めることで第3四半期よりも販売台数を倍増させ、年間で9.0%の増収を計画しています。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
カメラ	1,527	1,460	+4.6%	6,321	5,799	+9.0%	6,109	+212
ネットワークカメラ他	1,009	936	+7.9%	4,176	3,575	+16.8%	4,002	+174
売上高計	2,536	2,396	+5.9%	10,497	9,374	+12.0%	10,111	+386
営業利益 %	381 15.0%	436 18.2%	-12.6%	1,634 15.6%	1,513 16.1%	+8.0%	1,583 15.7%	+51

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2025年	
	3Q	年間見通し
カメラ	+3.6%	+9.6%
ネットワークカメラ他	+7.4%	+17.7%
合計	+5.1%	+12.7%

## ■カメラ台数/対前年伸び率

	2025年	
	3Q	年間見通し
台数(万台)	73	300
伸び率	+1%	+6%

19

## <ネットワークカメラ>

ネットワークカメラ市場は、セキュリティ用途の高いニーズに加え、AIによる映像解析を活用したマーケティングや社会インフラなど用途が拡大しており、市場は順調に成長を続けています。

第3四半期は、米国においては、第2四半期の関税による値上げ前の駆け込み需要の反動を想定していましたが、販売は堅調に推移し、その他の地域においても順調に販売を伸ばしたことで7.9%の増収となりました。

第4四半期も市場の成長は続くと想定されることから、パートナーとの強力な販売網を活かしながら豊富な製品ラインアップとソフトのトータルソリューションにより販売を伸ばし、年間では16.8%の成長を目指していきます。



## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
光学機器	619	514	+20.4%	2,604	2,534	+2.8%	2,726	-122
産業機器	235	187	+25.2%	1,055	983	+7.2%	1,077	-22
売上高計	854	701	+21.7%	3,659	3,517	+4.0%	3,803	-144
営業利益	139	140	-0.4%	636	689	-7.7%	683	-47
%	16.3%	20.0%		17.4%	19.6%		18.0%	

※2025年より報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、インダストリアルと消去の一部を組み替えており、2024年についても組み替えて表示しております。

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2025年	
	3Q	年間見通し
光学機器	+18.5%	+2.7%
産業機器	+24.2%	+7.2%
合計	+20.0%	+4.0%

## ■露光装置台数

		2025年	
		3Q	年間見通し
半導体	KrF	7	50
	i線	47	191
		54	241
FPD		11	33

20

## <光学機器>半導体製造装置

当社は、第3四半期に、生成AI向けのGPUの旺盛な需要を背景に、先端パッケージで業界標準となっている後工程向け装置が大きく伸び、前年の49台から台数を伸ばして54台を販売しました。

年間では、パワー半導体向けのさらなる投資先送りの影響を受けて計画を引き下げるものの、第4四半期においても後工程向け装置への投資意欲は引き続き強く、前年を5台上回る80台を販売します。

半導体露光装置市場は、2025年についてはPCやスマートフォンが想定ほど伸びずメモリ向けの回復が遅れ、EV需要の減速によりパワー半導体向けで停滞が見られたものの、生成AI需要は今後も成長を続け、メモリについても来年は回復が期待できます。

加えて、次世代の半導体製造装置であるナノインプリントは、今年上期に大手半導体メーカーに出荷した装置を使い、顧客サイトでメモリやロジックへの量産適用を目指した評価・検証を加速しており、顧客との協業が着実に進展しています。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	3Q			年間				
	2025年 実績	2024年 実績	対前年	2025年 最新見通し	2024年 実績	対前年	2025年 前回見通し	対前回
光学機器	619	514	+20.4%	2,604	2,534	+2.8%	2,726	-122
産業機器	235	187	+25.2%	1,055	983	+7.2%	1,077	-22
売上高計	854	701	+21.7%	3,659	3,517	+4.0%	3,803	-144
営業利益	139	140	-0.4%	636	689	-7.7%	683	-47
%	16.3%	20.0%		17.4%	19.6%		18.0%	

※2025年より報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、インダストリアルと消去の一部を組み替えており、2024年についても組み替えて表示しております。

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

## ■露光装置台数

	2025年	
	3Q	年間見通し
光学機器	+18.5%	+2.7%
産業機器	+24.2%	+7.2%
合計	+20.0%	+4.0%

		2025年	
		3Q	年間見通し
半導体	KrF	7	50
	i線	47	191
		54	241
FPD		11	33

20

## <光学機器>FPD（フラットパネル ディスプレイ）露光装置

ディスプレイ製造装置の市場は、パネルの需給バランス改善により、パネルメーカーの収益も改善していることで、徐々に回復してきています。

当社は、ITパネル向けの新規投資に加え、省電力や薄型化が進むスマートフォン向けの追加投資案件を数多く獲得し、第3四半期に対前年で7台増の11台を販売しました。第4四半期に販売を予定している8台については全て出荷を終えており、設置作業を着実に進め、年内に販売する見通しです。

## <産業機器>

成膜装置は、第3四半期に旺盛なAI需要を背景に、HBMなどの生産に用いられる半導体向けが大きく伸びました。有機ELディスプレイ蒸着装置は、2024年第4四半期に受注したITパネル向け大型装置の2号機の生産を着実に進めており、第4四半期も売上を伸ばしていくことで、産業機器全体で年間で7.2%の増収を目指しています。